

今年のシンガポール国際家具展では幾つかの注目点があったが、中でも新たな試みとして「プラットフォーム」のゾーンが注目された。

一号館の正面右手に十三小間のこじんまりしたスペースだったが、この企画の中心になったのがジェリー・タン氏シンガポール家具産業協会副会長だった。余談になるが三月三日、バイヤースナイトの壇上挨拶でタン氏は五年間、家具展の実行委員長を務めた立場を若手のトニー・タン氏に譲ると電撃的に発表した。

こうした氏が、最後の務めとして注力したのがプラットフォームだった。端的に言えば、この企画趣旨はシンガポールの若手デザイナー、大学や専門学校が学生がデザインした製品を企業が生産し、テーマブースに展示して、来場したバイヤーへ販売する。また、流通業者の意見を元に一部デザインを修正して生産し、販売する、そうした実

業的な取り組み(ジェリー・タン氏はデザイナーと企業とのコラボレーションと言った)をしてい

た。また、恒例だが展示ホールではなく、会議棟の一階のオープンスペースで、毎年、学生や若手デザイナーのデザインコンペが行われる。図面ではなく製品化したものを審査(王振森委員長、金賞以下銀、銅賞まで選出、バイヤースナイトで表彰する。このデザインコン

ペを一步進めたいものが、プラットフォームだ。全体の傾向として、デザインは丸みを帯びた流線形で、素材には木質系もあるが樹脂や金属、ガラスなど世界的に共通する複合使用を見せた。

ジェリー・タン氏は「プラットフォームはシンガポール政府がアイデアを出し、フェアの実行委員長の私が家具産業協会のプロジェクトとして立ち上げた。資金は政府から出ている。新しいデザイナーを育成し、市場へ新製品を発表する場が目的だ。コンペは一度発表して終わるが、プラットフォームは毎年続けていく」

「内容的にはコントラクト、ホームユース市場へデザイナーと企業がコラボレーションした。私の会社が契約しているジャル氏のデザインした製品を、インドネシアの工場で生産して展示した。今回の参加デザイナー、学生は六十七人で、実際は一つのブースの製品を数人が協同製作したものもある。実際は十三ブースのうち五つのブースがデザイン学校、八つのブースがビジネスを目的に新しいデザイナー達が取り組んだ(続く長島)

新企画にプラットフォーム デザイナーと企業がコラボ



④プラットフォームゾーン⑤ジェリー・タン氏(右側)とジャル氏。手前は発表製品



④プラットフォームゾーン⑤ジェリー・タン氏(右側)とジャル氏。手前は発表製品

インターナショナルクロス

Publication: The Home Living
Country: Japan
Date/Issue: Issue 1353, 5 Apr 2007